

①日頃からの準備（被害範囲を知る）

裏面の洪水ハザードマップ（外水氾濫）や⑤過去の内水氾濫実績を確認し、居住地等で発生が想定される被害について知りましょう。



洪水ハザードマップ等を基に、避難勧告等が発令された時の避難行動をあらかじめ考えておきましょう。立退き避難をする場合には、立退き避難場所の安全性をあらかじめ確認しておくとともに、その場所までの移動時間を考慮して自ら避難行動開始のタイミングを想定しておきましょう。



緊急避難場所は災害の規模や状況に応じて判断が必要です。指定緊急避難場所以外にも、親類や友人の家、近所の高台等、日頃から避難する場所を考えておきましょう。

また、災害時には携帯電話等が繋がらなかつたり、込み合うことで連絡が取れないこともあります。いざという時のために災害時の連絡方法も確認しておきましょう。



■災害時の連絡方法

大きな地震が発生すると、電話回線が混み合い、つながりにくくなります。このようなとき、各電話会社が設置する『災害伝言ダイヤルサービス』や『災害用伝言板サービス』を利用できます。

災害用伝言ダイヤルサービス 171

伝言の録音

171→1
ガイダンス(説明)がながれます。

被災者-ご自宅-電話番号
被災者のご自宅の電話番号を、被災地以外の方は、被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。

伝言を入れる
(30秒以内)

伝言の再生

171→2
ガイダンス(説明)がながれます。

被災者-ご自宅-電話番号
被災者のご自宅の電話番号を、被災地以外の方は、被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。

伝言を聞く

災害用伝言ダイヤルサービス ※スマートフォンでも災害用アプリで情報を登録できます。

例えば、NTTドコモの場合…

災害用キット

災害用伝言板

情報を入力

登録

※au、ソフトバンクなど各社に同様のサービスがあります。

※災害時以外にも、毎月1日、15日や、防災週間（8月30日～9月5日）などに災害用伝言ダイヤル（171）を体験できます。